「聖書を正しく解釈し、みことばに生きる教会」
Ⅱペテロ１：19―21

堀田修一 23・3・19

本日は、礼拝後、書面による定期総会が行われます。「主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな」詩篇１０３：２とあります。2022 年度の一年間もコロナ禍の中でも主の恵みで礼拝、祈り会、奉仕、セルグループが守られました。洗礼を受ける方、転入する方、新来会者が与えられました。すべての必要も満たされました。神に栄光を帰し心から感謝します。
2023 年度の聖句は、「ただし、聖書のどんな預言も勝手に解釈するものではないことを、まず心得ておきなさい」Ⅱペテロ１：２０です。

Ⅰ　この道標聖句と標語を選ばせていただいた理由
主イエスがこの世に来られた新約時代から、終末の時代が始まっているわけですが、現在、特に次のみことばの必要性が増しています。
「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地の良い話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、真理から耳を傾け、作り話にそれて行くような時代になるからです。けれども、あなたはどんな場合にも慎んで、苦難に耐え、伝道者の働きをなし、自分の務めを十分に果たしなさい」Ⅱテモテ４：２－５。「偽キリストたち、偽預言者たちが現れて、できれば選ばれた者たちをさえ惑わそうと、大きなしるしや不思議を行います」マタイ２４：２４。これまでも、現在も、主イエスを真の神と教えない異端（エホバの証人、統一教会、モルモン教、表面的には見分け難い集会、教え）が、主にある既存の教会の中に忍び込み、教会の方々と親しくなり、「自分たちの教会こそ正しい教えをする集会です」と言って、各教会から、教会員の人々を自分たちの集会に連れ出し、教会を分裂させる実態が常にあります。各異端と同じように、その集会の指導者の責任がいつか、神の前に問われると思われます。「教師は、より厳しいさばきを受けます」ヤコブ３：１。異端や間違った教えのグループの信者の方々は、ただ指導者に従わさせられている犠牲者とも言えます。その方々は、自分を神とする教祖のような指導者からの教えを学んでいるだけで、自分で聖書そのものを正しく解釈し学んでいるわけではありません。神から与えられている判断力を失わせるセミナーで間違った教えに洗脳させられるケースもあります。私たちは祈りつつ識別しましょう。

Ⅱ　真の救い、成長、解決の道があります。それは、神が与えられた真理の書、聖書を正しく解釈し、人間の教えではなく、真の神のみことばに養われ生きることです。
１．聖書を正しく解釈するには、いくつかの原則があります。
① 聖書を読む前に、聖霊なる神が真理を心に教えて下さるように神に祈る。
② 旧約聖書と新約聖書の６６巻の聖書全体を読み理解する。私たちが、大切な手紙を頂いたら、手紙の全体をよく読むことにより、途中の文章の意味が正しく理解できるように。神は、旧約聖書を読むことで新約聖書が理解でき、新約聖書は旧約聖書を読むことで理解が深まるように聖書全体を与えられた。旧約の光と新約の光が互いに照らされ理解できる。
③ ６６巻の聖書全体を大切にする。ⅰある部分を勝手に削除したり、ⅱ人間が考えた教えを聖書に加えたり、別の経典を作ってはならない→「もし、だれかがこれにつけ加えるなら、神がその者に、この書に書かれている災害を加えられる。また、もし、だれかがこの預言の書のことばから何かを取り除くなら、神は、この書に書かれているいのちの木と聖なる都から、その者の受け取る分を取り除かれる」黙示録２２：１８，１９
④ 聖書箇所の文脈、前後関係を大切にして読む。文のつなぎの接続詞も大切にして読む。
⑤ 教会につながり、教会で、聖書を正しく解釈する真理を学ぶ。教職者も正しい聖書解釈を学び続ける。「自分自身にも、教えることにも、よく気をつけなさい」Ⅰテモテ４：１６

⑥ 信頼できる注解書や解説書から学ぶ謙遜さも失わない。「みことばの光」「マナ」「バイブルナビ」他。

⑦ 「聖書の意味通りに読む」とは？ⅰ聖書がはっきり比喩的に読むことを求めている箇所は、比喩的に読む。たとえば、黙示録７：４－８の１４万４，０００人は、文字通りの数を意味しておらず、神の民を示す象徴の数の完全数。１２×１２×１，０００。「むちを控える者は自分の子を憎む者」箴言１３：２４。この「むち」は文字通りではなく、比喩的に解釈すべき→「むち」＝「むちは、文字通りではなく、愛をもって子どもを教育する事を意味している」※エホバの証人の問題がニュースに。ⅱ文字通りの箇所は、文字通りに読み、受け取る。その判断は、聖書全体と文脈により識別する。

⑧聖書の各書の背景：執筆年代、著者、執筆理由、中心的な主題等を信頼できる注解書、バイブルナビ等で調べて聖書を読むと理解が深まる。

⑨その箇所の聖書の教えが、その当時の人だけに当てはまるか、普遍的に適用すべきみことばかを良く調べ判断する。たとえば、Ⅰコリント１１：５，６の「女性が祈りやみことばを語る時、頭にかぶり物をつけるべき」という教えの解釈。当時だけか、いつの時代にも当てはめるべきか。世界の多くの教会は、現在、女性に礼拝中、かぶり物を強制していない。

Ⅲ「みことばに生きる」とは。

１． 聖書のみことばが、明確に現代の私たちに語られているとき、私たちは、先行的神の恵みに感謝しつつ、御聖霊に頼りみことばに従い生きる人生は幸いです。もし神が、私たちが生きる上で、間違いのない道筋となる聖書を与えておられなかったらどうなるでしょう？世界中の人々、私たち人間が、自分の思うままに生きる人生は、混乱、無秩序なものになります。判断基準、歯止めがありません。しかし、あわれみ深い神は、人間を見捨てず、旧約聖書の十戒で「神の主権と人間の人権を守ること」を教えられ、新約聖書では、「主の恵みによる救いと主に感謝し主の教え、間違いのない真理である聖書のみことばに生きる人生」を教えておられます。今年度の聖句Ⅱペテロ１：２０の前後のみことばを見つめましょう。「私たちは、さらに確かな預言のみことば（聖書）を持っています。夜が明けて、明けの明星（世の光である主）があなたがたの心に昇る（再臨される）までは、暗い所を照らすともしびとしてそれ（真理の光である聖書）に目を留めているとよいのです」１：１９。日々、聖書のみことばに心の目を留めて、暗い試練の時も、みことばの光に照らされて、人生を歩みましょう。「ただし、聖書のどんな預言も勝手に解釈するものではないことを、まず心得ておきなさい。預言（神からのみことば。時満ちて 66 巻の聖書に完成）は、決して人間の意志によってもたらされたものではなく、聖霊に動かされた人たちが神から受けて語ったものです」１：２０，２１。聖書は、聖霊なる神が人々を用いて真理を記された神のみことばです。

２．聖書のみことばが、明確に語っていないことは、互いの違う考え方、意見をさばかず、人格を愛し、尊敬し合い、自分の意見を持ちつつも、他の人に強制しない。互いに支配しない、支配されない。唯一の支配者は恵みとまことに満ちておられる主！自分と違う考えの人を見下げない。互いの人格を受け入れ、互いの意見を愛をもって聞き合い、愛をもって語り合い、物事を決めて行きましょう。「人（人格）を受け入れなさい。その意見をさばいてはいけません。…それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい。…もし、食べ物（聖書が明確に命じてないもの。それぞれ自由に選択して良いもの）のことで、あなたの兄弟が心を痛めているなら、あなたはもはや愛によって歩んではいません。キリストが代わりに死んでくださった、そのような人を、あなたの食べ物（神がどちらでも許されるもの）のことで滅ぼさないでください」ローマ１４：１，５，１５。今年も、みことばを正しく解釈し、正しく理解し、みことばを喜びとし、互いに愛し合い、みことばに生きる教会として歩みましょう。